

メル校に来てよかった

平成25年 10月 4日

私は、小学校2年生でメル校に転校しました。まだ小さかった私には、全ての事が新しい、初経験のことばかりでした。そんな中で、私がメル校で学び、日本に帰ってからも誇れることは、皆の仲の良さ、人を思いやる気持ちです。

私が小学校一年生でまだ日本にいるとき、他のクラスの人とはあまりしゃべっていなかったし、ましてや他の学年の人と話すなんて、それほどなかったです。でも、メル校では学校中の人たちが一緒に話すなんて当たり前。友達を通り過ぎてもう家族なんじゃないかっていうぐらい。年上の人に対しても愛称で呼んでいるし、一緒に遊ぶし、放課後のクラブによっては、小・中合同でクラブ活動もするし。皆が触れ合う時間が長いメル校ではそんなの当たり前って思っていたけれど、私は日本に帰って初めてそれが当たり前じゃないって、気付きました。他の学年の人達と遊ぶなんてめったにないし、先輩と一緒に話すことは、部活の時以外はほとんどない。メル校とは全く逆です。先輩とは敬語で話さないと怒られる。なんでこういう風なのだろうって思いました。先輩に対して敬語を使うことで、人を敬う気持ちができます。でも、本当の絆はできません。相手のことだって分かりきれないし、先輩には敬語で話さないと怒られる、という恐怖心みたいなもので自分の素の姿は出せません。来年、私に後輩が出来ても、きっとまたその後輩たちも私たちと同じように先輩とはあまりうまく話せないだろうし、そう思うと、メル校みたいな本当の絆はずっと生まれぬのでは、って思いました。でもメル校ではそれがありません。皆の事をよく知り、一緒に遊ぶから、話すから、その分相手のことが分かるし、自分が帰国・転校、友達が帰国・転校するときのメル校での別れはすごく、すごく悲しいです。でもそれはそれだけ相手と仲良くなったしるしなのです。楽しいけど、別れがあるメル校では離れてから、相手がどれだけ大きな存在だったのか、どれだけ自分を支え、助けてくれていたのか、よく分かります。だから人への感謝の気持ちが生まれ、その感謝の気持ちを、次は自分が、どんな人でも良いから、感謝してもらえるように、ありがとうって言ってもらえるように、自分は、人は頑張ります。メル校は、人の一人一人の存在、ありがたみ、それらが生まれるまでの、人と協力する事の大切さ、人を大切にすることの重要性を教えてくれる、とってもとってもありがたく、素晴らしいところです。私はメル校で過ごせて、本当に良かったと思います。でもそう思えたのは、先生方、周りにいる仲間達のおかげだと思って、私は今、頑張っています。

今メル校にいる皆さんも、今周りにいる仲間たちがどれだけ大切な存在なのか考えながら、一日一日を過ごして下さい。メル校は、私にとって世界一素晴らしいところです。私のとっておきの居場所です。